



アゼルバイジャン、ギョイテペ遺跡の建築（約7500年前）

# レンガ建築は どのようにして出現したのか 建築にみる1万年前の社会転換

建築博物教室 第14回 公開ギャラリーセミナー

## 泥壁のアーキテクチャ

**西秋 良宏**（東京大学総合研究博物館 教授/先史考古学）

日時：2017年10月21日（土）13:30～15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「空間標本」展示室

入場：無料（事前申込不要）

# 泥壁の アーキテクチャ

西秋 良宏

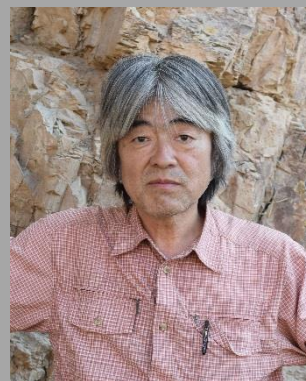


(左) 古代建築修復用のレンガ、(右) 建築中の現代レンガ建物 (どちらもシリア)

今日一般的な四角いレンガ作りの建物は約1万年前、西アジアの新石器時代文化にルーツをもっています。当時発展しつつあった世界最古の食料生産経済、すなわち農耕牧畜の浸透は人々の社会を大きく変化させました。その変化が建築にもおよんだのです。半地下式から地上式へ、柱立ちからレンガ作りへ、円形から方形へ。1万年前におきた建築の変遷は、当時の社会や人々の生き方の転換を直截的に反映しています。当時の建築がいかに社会の構成原理と結びついたものであったのかを考古学的に探ります。

**東京大学総合研究博物館小石川分館**

〒112-0001 東京都文京区白山 3-7-1  
Tel. 03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)  
入館料: 無料  
休館日: 月・火・水曜日  
(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日  
アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩 8 分  
<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>



西秋 良宏 (にしあき よしひろ)

東京大学総合研究博物館教授。東京大学文学部卒、ロンドン大学大学院博士課程修了 PhD。東海大学文学部講師、東京大学総合研究資料館助教授などをへて 2006 年より現職。30 年以上、西アジア一帯の考古学調査に従事している。主な著書に『新石器時代シリアの石器技術』(オックスフォード)、『テル・コサック・シャマリ——ユーフラテス川上流域の先史遺跡調査、全 2 巻』(オックスフォード)、『シリア、ハブール平原と北メソポタミアの新石器時代考古学』(ベルリン)、『遺丘と女神——西アジア原始農村の黎明』(東京大学出版会)などがある。



現代シリア農村の家屋建築風景

建築博物教室とは？  
「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ  
**KOISHIKAWA Annex.**  
**UMUT**  
東京大学総合研究博物館小石川分館